

(別添1)

【千早赤阪村】

端末整備・更新計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 児童生徒数	247	232	218	203	196
② 予備機を含む 整備上限台数	284	266	0	0	0
③ 整備台数 (予備機除く)	0	232	0	0	0
④ ③のうち 基金事業によるもの	0	232	0%	0%	0%
⑤ 累積更新率	0%	100%	100%	100%	100%
⑥ 予備機整備台数	0	34	0	0	0
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの	0	34	0%	0%	0%
⑧ 予備機整備率	0%	14.7%	0%	0%	0%

※①～⑧は推定値

(端末の整備・更新計画の考え方)

- ・令和元年度購入端末(118台)・・・令和7年度購入、令和8年4月更新
 - ・令和2年度購入端末(200台)・・・令和7年度購入、令和8年4月更新
- (更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数：318台

○処分方法

- ・使用済端末を公共施設や福祉施設など地域で再利用 : 0台
- ・小型家電リサイクル法の認定事業者にて再使用・再資源化を委託 : 318台
- ・資源有効利用促進法の製造事業者にて再使用・再資源化を委託 : 0台
- ・その他() : 0台

○端末のデータの消去方法 ※いずれかに○を付ける。

- ・自治体の職員が行う
- ・処分事業者へ委託する(○)

○スケジュール(予定)

- 令和8年4月 新規購入端末の使用開始
- 令和8年5月 処分事業者 選定
- 令和8年8月 使用済端末の事業者への引き渡し

(別添2)

【千早赤阪村】

ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合 (%)

必要なネットワーク速度が確保できている学校数：3校（小学校2校、中学校1校）

総学校数に占める割合：100%

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

(1) ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

定期的に学校を訪問し、ネットワーク速度を測定するなど課題の特定に努めるとともに、学校ネットワークに不具合等が生じた場合、委託業者と連携し、不具合等の解消に努める。

なお、不具合等が解消されず、原因特定が困難な場合、関係課と調整を行い、予算措置が完了次第、ネットワークアセスメント調査を実施する。

(2) ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

ネットワークアセスメント調査の結果を踏まえ、委託業者と連携し、改善策を検討する。

なお、予算措置が必要な場合は、関係課と調整を行い、予算措置が完了次第、改善策を実施する。

(3) ネットワークアセスメントの実施等により、既に解決すべき課題が明らかになっている場合には、当該課題の解決の方法と実施スケジュール

記載なし

(別添3)

【千早赤阪村】

校務DX計画

令和6年3月に公表された「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果（確定値）を踏まえ、次の取り組みを行う。

1 クラウド環境を活用した校務DXの積極的な取り組み

本村では、令和元年度に導入した統合型校務支援システムの活用による指導要録や出席簿など、公簿の電子化や、令和6年12月に校務用PC端末の更新より、教職員に対して1人1台端末（校務系PC端末と学習系PC端末の統合）を整備するなど、校務の効率化を図っているところであるが、校務支援システムのクラウド化は実施できておらず、ロケーションフリーな教育環境の整備は進んでいない。

今後、校務支援システムのクラウド化やゼロトラスト型のネットワークへの移行、次世代校務支援システムの導入、データ連携等による校務支援システムへの手入力の軽減等に関する情報収集を行い、クラウド環境を活用した校務DXに向けて検討し、校務の効率化を図る。

2 ペーパーレス化の推進に関する取り組み

本村では、各種調査や研修資料、会議資料等においても、電子メールや校務系ネットワークを活用したフォルダでの共有を推進しているところである。

しかし、一部の業務において、FAXでの送受信や押印等を必須になっていることによる紙媒体での提出が見受けられる。また、対面での会議においても、紙媒体での資料配布をしている場面がある。

今後、紙媒体を利用している業務について、文書の性質を考慮しながら、電子メールへの移行や押印等の廃止について検討するとともに、対面での会議におけるペーパーレス化を図る。

(別添4)

【千早赤阪村】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

中央教育審議会の答申では、『令和の日本型学校教育』の実現には「個別最適な学び」と「協働的な学び」の二つの学びを一体的に充実させることが大切とされている。

千早赤阪村では「個別最適な学び」において、指導方法や指導体制の工夫改善による「個に応じた指導」の充実を図るために、学習履歴（スタディ・ログ）や生徒指導上のデータを利活用することや、学習の基盤となる資質・能力の確実な育成、多様な児童生徒一人ひとりの興味・関心等に応じ意欲を高めやりたいことを深められる学びを提供することを重視する。そのため、児童生徒一人ひとりが端末を文房具的に活用する習慣をつけたり、学習内容等を端末内に記録する仕組みを工夫したりするとともに、児童生徒一人ひとりのニーズを把握し、端末を効果的に活用した授業改善を行っていく。

また「協働的な学び」においては、先述の「個別最適な学び」が“孤立した学び”にならないよう、児童生徒相互の関係性を大切にした学習として位置づけ、探究的な学習や体験活動を通して子ども同士で協働しながら必要な資質・能力を育成する学びを提供することを重視する。そうすることで、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化や課題を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることも期待される。そのため子ども同士の関わり合い、自分の感覚や行為を通して理解する実習や実験、地域社会での体験活動など、様々な場面でリアルな体験を通じて学ぶことができるよう授業改善や環境整備を行っていく。

そして、どちらの学びにおいてもICTを活用すること自体が目的にならないよう留意し、授業改善においてはPDCAサイクルを意識した効果検証及び分析を行うとともに、健康面を含めICTが児童生徒に及ぼす影響にも留意する。

2. GIGA第1期の総括

令和3年度に1人1台タブレット端末の整備を完了し、千早赤阪村学校教育情報化推進計画に基づき、授業はもちろん、学級・学校運営におけるタブレット端末の活用について、大阪教育大学より派遣された情報コーディネーターから指導助言を受けながら、すべての教職員と児童生徒がタブレット端末を使えるような環境整備に取り組んだ。

その結果、ロイロノートなどのデジタル教材やGoogleclassroom等を積極的に授業で活用したことによる、児童生徒の端末操作スキルが向上、また、GoogleFoamを活用した学校内アンケートを実施し、校務の効率化を図るなど、一定の成果が見られた。

しかし、端末利用の場面設定がほとんど授業者主体となっており、学習者である児童生徒が主体的に端末の活用する場面を少ないという課題が浮き彫りになった。

3. 1人1台端末の利活用方策

端末の整備・更新により、児童生徒向けの1人1台端末環境を引き続き維持することを前提として、学習者である児童生徒が主体的にタブレット端末を活用するよう、以下

の取組を推進する。

(1) 1人1台端末の積極的な活用

教職員に対してICT研修受講を促すとともに、端末やデジタル教科書の有効的な活用方法に関する情報を収集、共有していく。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

引き続き、授業などで1人1人に合わせたデジタル教材を活用したドリル学習を推進するとともに、授業において教職員がタブレット端末の使用を指示するのではなく、あらゆる場面で学習者である児童生徒が主体的に模造紙や画用紙、Word、PowerPoint等のツールを選択し、学習する授業づくりを推進する。

(3) 学びの保障

タブレット端末の持ち帰りによる、家庭でのデジタル教材を用いた宿題・予習・復習、学校休校時や風邪等による体調不良での欠席時の課題学習や授業配信等において有効的に活用していくとともに、様々な理由で学校に来ることができない、また支援が必要な児童生徒がタブレット端末を用いて、授業の視聴や参画ができるよう、有効的な活用方法を検討し、学校とつながり続けることで、誰一人取り残されることのない環境の整備を促進する